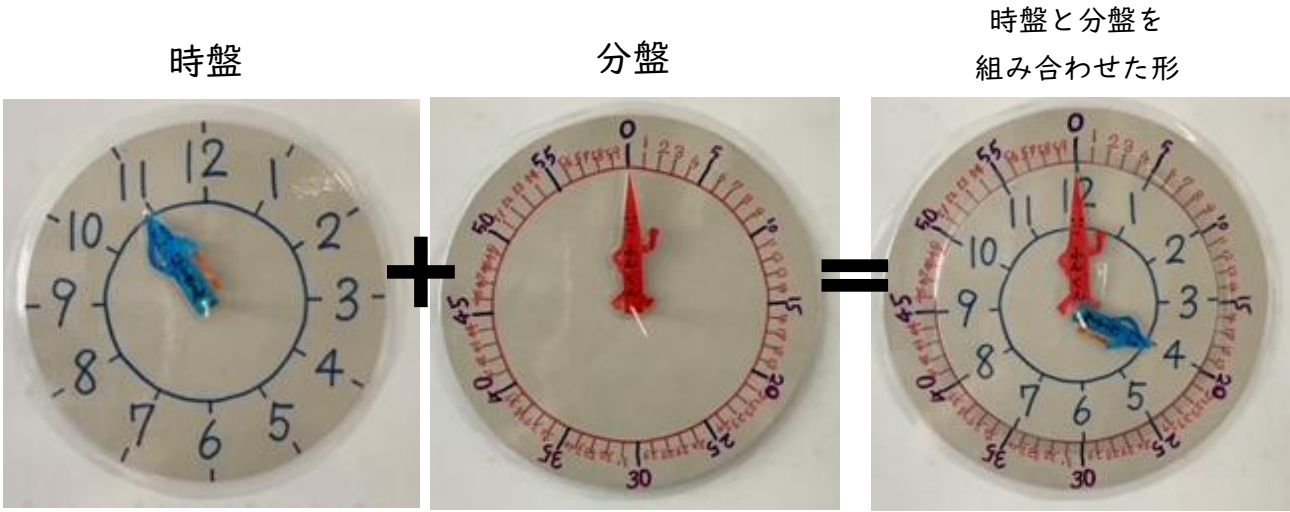


教科	算数	時計盤(小1・小2)
----	----	------------



目的	時計の学習で使用するもの。
----	---------------

<p>取り組み内容</p>	<p>型紙で上記のような時計盤と針を作る。</p> <p>1. <u>時盤で「何時」を学習する。</u> 何時を指す針は、背が低くて、進む速さが遅いという特徴に気付かせる。このことから、時盤の針の名前を「時ーさん」とする。 2点の特徴が視覚的にもわかるように、針のデザインを「おじいさん」のようにする。 ここまで理解出来たら、実際に針を回して何時かを考える。数字のところを指すと何時か簡単に答えることができるが、数字と数字の間を問うと答えに詰まることが多い。その場合は、時計の数字を誕生日で考える。「7歳になる前の日は何歳?→6歳→時計もそれと同じ考えて、針が7を指すまでは6時になる。」と説明すると理解しやすい。</p> <p>2. <u>分盤で「何分」を学習する。</u> 分盤は60個のメモリが書かれている。そのメモリの上に0から数字を子供に書かせるのと、時計のメモリは60分までであることが理解できる。 何分を指す針は、背が高くて、進む速さが速いという特徴に気付かせる。このことから、分盤の針の名前を「分くん」とする。針のデザインを「足が速い人」のようにする。 ここまで理解出来たら、実際に針を回して何分か考える。</p> <p>3. <u>時盤と分盤を合体させて学習する。</u> 「何時」→「何分」の順番で行えば「時こく」を答えることができるようになる。この時に時計盤をそれぞれ青と赤で色を分けていたことで、どのように時計を見たらいいかがわかりやすいことに気づく。</p> <p style="text-align: right;">参考文献 YouTube 小島よしおのおっぱっぴー小学校 『時計のよみかた』 https://www.youtube.com/watch?v=LbYijVgaqhs</p>
---------------	---

